

登録番号 第 23866 号

アトカラ<sup>®</sup>S ジャンボ MX

特長：	●移植後 14 日から使用できる水稲用中期除草剤です。
	●初期または一発除草剤との組み合わせで使用します。
	●新技術「ソニックスプレッドテクノロジー*」により、投げ込むだけの省力中期除草を実現します。
	●ノビエからクログワイ等の多年生難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。
	●畦畔侵入するキシウスズメノヒエ、イボクサ等にも優れた効果を示します。
*拡散性能を飛躍的に向上させた三井化学クロップ&ライフソリューションの独自技術です。	

有効成分	アジムスルフロン・・・0.36% ペノキスラム・・・0.36% メソトリオン・・・2.0%	包装	(25g×20) ×10 (25g×60) ×4
性状	淡褐色細粒 水溶性パック入り 1パック 25g	有効年限	3年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2020年5月13日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラモダガカ ミスガヤツリ ウリカ クログワイ モダガカ ヒルムシロ セリ コウキカガラ キシウスズメノヒエ	移植後 14 日～ ルビエ3.5 葉期 ただし、 収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ	稲 4 葉期～ ルビエ4 葉期 ただし、 収穫 45 日前まで	小包装(パック) 20 個(500g)/10a	1 回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。

アジムスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ペノキスラムを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきることを。
- (2) 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ(移植水稻)は草丈10cmまで、ホタルイ(直播水稻)、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ(直播水稻)、ウリカワ(直播水稻)は3葉期まで、ウリカワ(移植水稻)は4葉期まで、ミズガヤツリ(移植水稻)は草丈15cmまで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、ヒルムシロ(移植水稻)は発生盛期まで、ヒルムシロ(直播水稻)は発生期まで、セリは再生期まで、コウキヤガラは草丈20cmまで、キシウスズメノヒエは再生茎4葉期までが本剤の散布適期である。
- (3) クログワイ、オモダカは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5~6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (6) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- (7) 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり20個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (8) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (9) 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさけること。
- (10) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱な苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - 4) 稲の根が露出している水田
  - 5) 処理後著しい高温が続く場合
- (12) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (13) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- (2) 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
  - 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
  - 2) 皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

## 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。